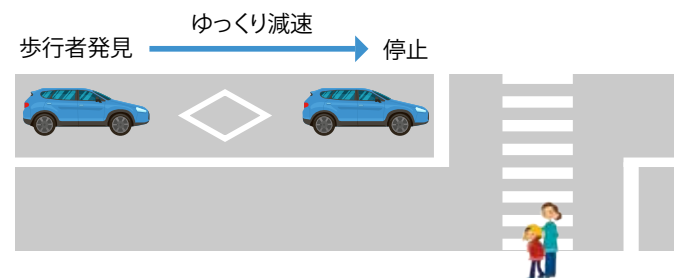


横断歩道は 歩行者が優先

横断歩道の歩行者の優先は交通ルールの基本です。しかし、このルールが運転者に十分に守られていません。信号機が無い横断歩道に歩行者が居るときに一時停止する車は、全国で17%、埼玉県で12%といわれています。

車両（自転車を含む）は、次の3つのことに気を付けて歩行者の優先を徹底し、思いやりの気持ちを持った運転を心掛けましょう。



横断歩道に近づいたときは減速する

横断歩道に近づいたときは、横断歩道の直前で停止できる速度で進行しなければいけません。
※横断しようとする歩行者が居ないことが明らかな場合を除く。

横断歩道に歩行者などがある場合は一時停止

横断歩道を横断しようとする歩行者がいる場合は、横断歩道の直前（停止線がある場合は停止線の直前）で一時停止し、その通行を妨げてはいけません。

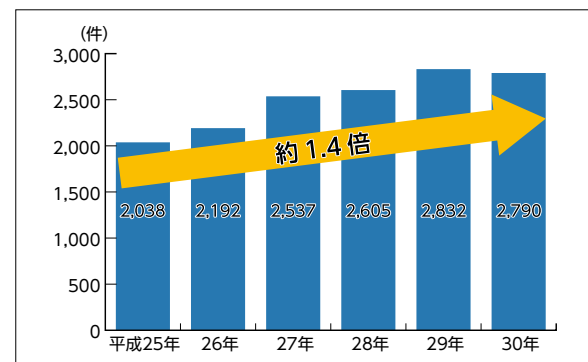
横断歩道手前での 追い抜き・追い越しはしない

車は、横断歩道や自転車横断帯とその手前30メートル以内のところでは、その前方を進行している他の車など追い越したり、追い抜いたりしてはいけません。歩行者が見えにくくなり、見落とす可能性が高くなって危険です。

ながら運転厳罰化



車や自転車を運転しながらスマートフォンやカーナビなどを使用する「ながら運転」は、道路交通法違反です。他の車両や歩行者に気付かなかつたり、信号を見落としてしまつたりするため、歩行者や他の車に衝突するなどの重大な事故につながります。大変危険ですので、絶対にやめましょう。
近年、運転中のスマートフォンの使用や画面注視をきっかけとする事故が増えています。昨年12月1日からは「ながら運転」に対する罰則が厳しくなりました。反則金や違反点が厳しくなり、事故を起こさなくても懲役刑になることもあります。
運転中どうしてもスマートフォンなどを使用しなければならぬときは、必ず安全な場所に停車してから使用しましょう。



▲ながら運転に起因する交通事故件数

歩きながらスマートフォンなどの操作に集中する「歩きスマホ」は、危険な行為です。視野が狭くなつたり、音を認識しづらくなつたりするなど周囲への注意力が低下し、他の歩行者や車などと衝突する危険が高まります。
「歩きスマホ」は、自分だけでなく他人を巻き込む危険性があることを認識し、道路上でスマートフォンなどを使うときは、必ず立ち止まり、通行の妨げにならない安全な場所で使用しましょう。

歩きスマホは危険

交通ルールを守る 事故に遭わないために

誰にでも交通事故に遭ってしまう可能性があります。

事故に遭わないように、また自分で起こさないように交通ルールやマナーを守りましょう。



問 道路課（TEL257・5221）

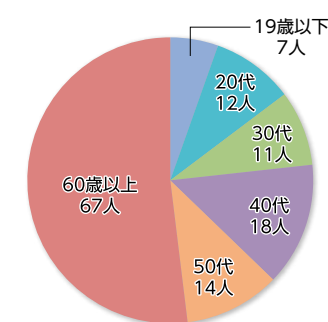
交通事故って怖い

昨年の埼玉県内での交通事故の死者数は129人。全国で8番目に多いですが、死者の発生率（人口10万人当たり）は、全国で4番目に低いです。また、交通事故で負傷した人は2万5704人も居ます。県内では、1日に約59件の人身事故があり、約70人が交通事故で負傷しています。
昨年の市内での人身事故は、230件、物件事故は1791件でした。特に高齢者・自転車・交

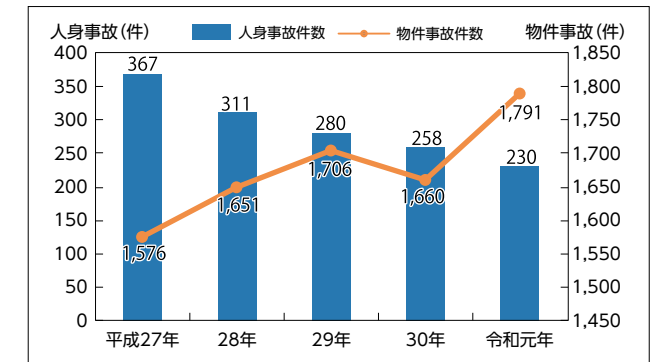


差点での事故が多く発生しています。
交差点では、車の死角となりドライバーから見えない場合があるので、しっかりと安全確認して周りに注意しましょう。ドライバーは、歩行者・自転車側に対して思いやりのある運転をしましょう。
例年、11月から12月にかけて交通事故が増えます。一人一人が交通ルールを守り、交通事故に遭わない、起こさないように意識することが事故を防ぐことにつながります。

交通事故で
亡くなった人の
2人に1人は
60歳以上です。



▲県内の年代別交通事故死者数



▲市内交通事故の年別推移

交通指導員を募集しています

道路課 (TEL 257・5221)

市では、子どもたちの登校時間帯における交通安全の確保および通学指導、交通ルールや正しい横断歩道の渡り方などを教える交通指導員を募集しています。

対象 20～65歳の人

主な活動時間 午前7時30分～8時30分

手当 1日当たり2,400円

申込方法 道路課（市役所第2庁舎2階）窓口か電話で申し込む

※随時受け付けています。

※指導員用の制服などは貸与します。

※ボランティア保険へ加入します。

交通指導員って何するの？

- 子どもたちの登校時の交通安全指導
- 交通法令違反者に対して法令を順守するよう指導
- 交通安全行事の協力
- 交通安全啓発の推進

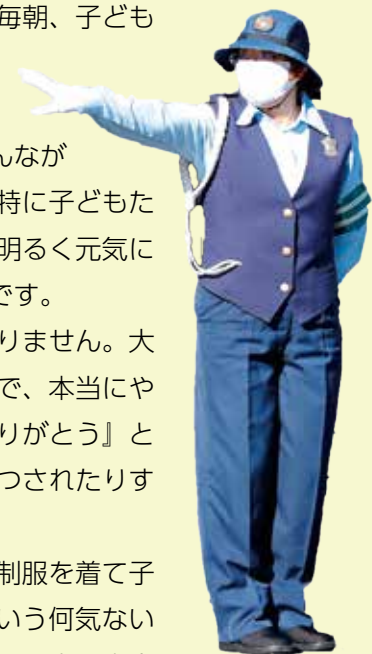
現役交通指導員の声を聴きました

現在、元福・上野台小学校地区の交通指導員をしている毛利さん。毎朝、子どもたちが安全に登校できるように見守り始めて16年が経ちます。

「自分の子どもたちが家を出るより早くに交通指導に向かわなければならず、続けられたのは家族の協力のおかげです。交通指導員は、みんなが事故を起こさないために協力してもらうよう声掛けするものですが、特に子どもたちの登校時間を見守ります。ただ子どもたちを見守るだけではなく、明るく元気にあいさつや声掛けをして、楽しく学校に行けるようにすることが大切です。

また、交通指導員は、雨の日も風の日も雪の日も立哨しなければなりません。大変ですが、子どもたちが成長していくのを肌で感じるできるので、本当にやりがいがあります。地域の人が『ご苦労様』『大変ですね』『いつもありがとう』と声を掛けてくれたり、制服を着てないときに子どもたちからあいさつされたりすると嬉しいです。

今の時代、急に声を掛けると怖がられてしまいがちですが、貸与される制服を着て子どもたちに元気よくあいさつすると安心して返してもらえます。そういう何気ないあいさつやひとことで、少しでも『事故に遭わない、起こさない』という交通安全の意識付けができればと思います。」



交通指導員
毛利 信子さん

プロのスタントによる安全教育



▲大井西中学校で行われたときの様子。スタントマンによる事故の再現を見た生徒たちは、その迫力に圧倒されていました。

小学生に対する交通安全教育を東入間警察署と連携し、市内全ての小学校で実施しています。
また、市内中学校では、生徒全員が受講できるように、3年に1度プロのスタントにより交通事故を再現するなど、視覚に訴えて教育効果を高める自転車安全運転教育を実施しています。昨年度は大井・福岡・韮原中学校で実施しました。

区域規制「ゾーン30」を指定



市内の一部区域に「ゾーン30」を指定しています。歩行者の交通事故を防止するため、区域内は最高速度時速30キロメートルの交通規制をしています。北野・上福岡区域、桜ヶ丘区域、鶴ヶ舞・東久保区域、新田・富士見台区域、駒林1・3丁目・新駒林1・3丁目区域、松山1・2丁目区域を指定しています。

県では、平成30年4月から自転車を利用する人に対して、自転車損害保険などの加入を義務化しています。未成年者の場合は、保護者などが加入しなければなりません。

自転車損害保険は、自転車事故を起こしたときの被害者救済や加害者の経済的負担軽減になります。自動車保険や火災保険などに付加できるものやクレジットカードの付帯保険として加入できるものもあります。詳しくは、県ホームページ（QRコード）をご覧ください。



自転車利用安全5則

- ①自転車は車道が原則、歩道は例外
- ②車道は左側を通行
- ③歩道は歩行者優先で車道よりを徐行
- ④安全ルールを守る
□飲酒運転・2人乗り・並進の禁止
□夜間のライト点灯
□交差点での信号順守・一時停止・安全確認
- ⑤子どもはヘルメットを着用



自転車保険に加入していますか

安全に自転車に乗るために

昨年度の県内の自転車乗用中の死亡事故は、約70%が交差点内か交差点付近で発生しています。自転車も軽車両だと自覚し、特に交差点でのルールを守りましょう。

また、雨の日の傘さし運転やイヤホンをしての運転は、片手運転になったり、周りの音が聞こえづらくなったりして危険です。埼玉県道路交通法施行細則で禁止されていますので、絶対にやめましょう。

ブレーキやタイヤの空気圧、ベル、ライトなどの点検を定期的に行い、「自転車利用安全5則」を守って自転車を安全に利用し、自転車事故を防ぎましょう。